

開催日：平成 22 年 12 月 25 日、26 日

講師：鈴木 光雄氏、田嶋 健氏

1年間の矯正セミナーの第3回目が平成22年12月の最終土・日曜日に開催されました。今回は患者さんの顎機能検査を、キャディアックス・ダイアグノスティックを使用して行いました。キャディアックスはウィーン大学名誉教授のスラビチェック氏の理論に基づいて開発された、顎機能咬合診断診療プログラムです。キャディアックス下顎運動測定装置により得られたデータをコンピュータにより解析し、患者さんの持つ個々の骨格形態を分析し、咬合器の設定、最終補綴物を製作するまでのシステムです。

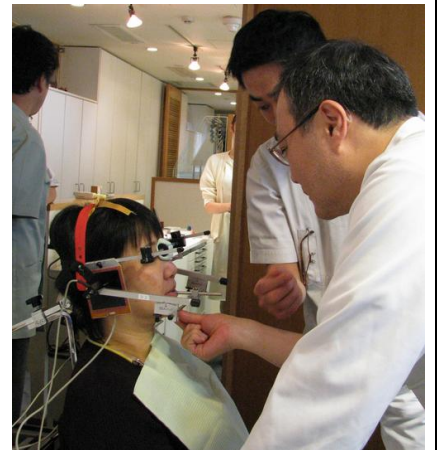
講師の田嶋 健先生はスラビチェック教授とともにキャディアックスを使用して講義をされていた方ですから大学の授業さながらです。鈴木光雄先生はじめ参加者の方でスラビチェック教授の講演を聴講している方でも、日本語に訳された田嶋先生の講演は非常に判りやすいと評判です。田嶋先生は1回目から講演していただいていますので、最終回を迎えたころにはキャディアックスはもちろん、オーストリア咬合学を理解して、今よりも数段階上のレベルで臨床に取り組みされることでしょう。



田嶋先生が患者さんの首や肩を左右両手で押さえています。患者さんは右手と左手で痛み具合を表現する診断法です。不正咬合を治療していく段階で痛み具合を記録して経時的に把握することができます。



キャディアックス・ダイアグノスティックを患者さんに装着して下顎運動軌跡データを計測します。慣れないと難しい作業らしく1時間かかっても計測できない事もあるそうです。初めての方とそうでない方の差ははっきりしていましたが、鈴木先生と田嶋先生は15分程度で計測できると言われていました。



田嶋先生の指導のもと、下顎を動かしてみる受講生。第1回、2回は概論と基礎的なことが中心でしたから、実践的なセミナーを呈してきました。翌日のセミナーは赤坂研修センターに場所を移して、セファロトレースです。

